

### 3.3. 歯周外科手術

#### <到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従える
- ・ ステップごとに報告できる
- ・ 患者にこれから行うことの説明ができる
- ・ 必要器材を用意できる
- ・ 適切なバキューム操作ができる
- ・ 麻酔の補助ができる
- ・ 手術野の確保ができる
- ・ 歯肉（歯周）包帯材を練和できる
- ・ 術後説明ができる
- ・ 後片付けができる

#### <設定場面>

患者は左下奥歯の動揺と歯肉出血を主訴に来院した。慢性歯周炎と診断し、歯口清掃やスケーリング・ルートプレーニングなど初期治療を行ったが、改善されなかったため、本日歯周外科手術を行うこととなった。

#### <治療手順>

##### 1. 患者の誘導と説明

歯科医師：衛生士（助手）に患者の誘導と説明を指示する。

衛生士（助手）：患者の誘導し、健康状態を確認した上で、処置内容を説明して同意を得る。

##### 2. 麻酔 必要器材：エックス線フィルム、麻酔セット

歯科医師：衛生士に麻酔をする旨を伝え、補助を指示する。

助手にエックス線フィルムと麻酔セットの用意を指示する。

助手：エックス線フィルムと麻酔セットを準備する。

歯科医師：必要部位に麻酔を行う。

衛生士：麻酔の補助を行う。

3. 歯肉縁の切開と骨膜の剥離翻転 必要器材：滅菌ゴム手袋、メス、骨膜剥離子、  
粘膜剥離子、外科用バキュームチップ、  
ハーケンピンセット、ルーツェピンセット  
クレンカプランポケットマーカ―

歯科医師：衛生士、助手に歯肉縁の切開と骨膜の剥離翻転をする旨を伝え、準備とアシスタントを指示する。

助手：必要器材を準備する。

歯科医師：歯肉縁から歯槽骨頂に向かって切開する。

切開線より歯頸部に残った歯肉はシックルタイプのスケーラーで掻き取る。

残った歯肉片はハーケンピンセットなどで除去する。

剥離子で歯肉を唇舌（頬舌）的にはがす。

衛生士：手術野の止血をはかる。

4. 不良肉芽の搔爬と除去 必要器材：シックルタイプスケーラー、鋭匙、  
滅菌ガーゼ

歯科医師：シックルタイプスケーラー、鋭匙で不良肉芽の搔爬と除去を行う。

衛生士：ルーツェピンセットに挟んだガーゼで出血を抑制し、手術野の確保を行う。

5. 歯根面の搔爬と滑沢化 必要器材：キュレットスケーラー、骨やすり  
リボンガーゼ

歯科医師：露出した歯根面はキュレットを使用して歯石や壊死セメント質を除去し、歯根面を滑沢にする。

6. 歯槽骨の整形 必要器材：ラウンドバー# 8、生理食塩水、ミニウムシリンジ  
歯科医師：歯槽骨縁をラウンドバーで整形する。

衛生士：生理食塩水を切削部分に滴下し、削片を生理食塩水で洗い流す。

7. 歯肉形態の修正と縫合 必要器材：縫合セット  
(持針器、縫合針、縫合糸、縫合用はさみ)

歯科医師：歯肉を歯によせ、治癒形態を予想して過剰部分をスケーラーや歯肉はさみで整える。

衛生士：縫合糸を針につける。

歯科医師：可動範囲の大きい部分から縫合する。

衛生士：縫合する歯肉縁が固定していない場合には、ハーケンピンセットで把持固する。

8. 歯肉（歯周）包帯（パック）      必要器材：歯肉包帯材、紙練板、錫箔  
セメントスパチュラ、抗生物質軟膏

歯科医師：縫合糸に歯肉（歯周）包帯材が絡まないように抗生物質軟膏をおき、歯頸部を錫箔で覆う。

衛生士（助手）：歯肉（歯周）包帯材を練和し、紐状に長く伸ばす。

歯科医師：縫合部を歯肉（歯周）包帯材で覆い、歯間空隙に包帯材を圧入しておく。

9. 術後の注意と後処理

歯科医師：衛生士、助手に術後の注意と後処理を指示する。

衛生士：処置内容を説明し、投与された薬剤の服用方法や術後の注意を行う。

助手：後片付けをする。

### 3 3. 歯周外科手術

#### 必要器材

- ①エックス線フィルム
- ②麻酔セット
- ③滅菌ゴム手袋
- ④メス
- ⑤骨膜剥離子
- ⑥粘膜剥離子
- ⑦外科用バキュームチップ
- ⑧ハーケンピンセット
- ⑨ルーツェピンセット
- ⑩クレンカプランポケットマーカ
- ⑪鋭匙
- ⑫滅菌ガーゼ
- ⑬シックルタイプスケーラー
- ⑭キュレットスケーラー
- ⑮骨やすり
- ⑯リボンガーゼ
- ⑰ラウンドバー# 8
- ⑱生理食塩水
- ⑲ミニウムシリンジ
- ⑳縫合セット (持針器、縫合針、縫合糸、縫合用はさみ)
- ㉑歯肉包帯材
- ㉒紙練板
- ㉓錫箔
- ㉔セメントスパチュラ
- ㉕抗生物質軟膏